

平成 30 年度文書館資料叢書 15

『福井藩士履歴 7 子弟輩』の発刊・配布について

1 刊行の目的

文書館資料叢書は、福井県の歴史解明において重要で、かつ一般利用者の閲覧要望が多い資料を活字化し解説等を加えて刊行してきた。このうち士分と呼ばれた上級～中級藩士の家臣の人事履歴を昨年度までに刊行してきたが、今年度はそれに引き続く形で、幕末期に新たに召しだされた藩士の子弟（303名）の人事履歴を刊行した。

2 おもな掲載人物

八木八十八（目下部太郎）（やぎやそはち（くさかべたろう）、1845-1870）

八木郡右衛門の長男。慶応元（1865）年に英学修行のため長崎に赴く。幕府の海外渡航の禁令が解かれると米国留学の第一号に選ばれ、慶応 3（1867）年横浜から出航、州立ラトガース大学に入学し、後の福井藩雇理化学教師 W・E・グリフィスの指導を受けた。理科コースを専攻。

4年の課程を3年で習得し、常にクラスで首席を通した。明治 3（1870）年、卒業を目前に病死。同大学より黄金の鍵（首席卒業生の証）が贈られている。

長谷部卓爾（はせべたくじ、1845-1910）

長谷部甚平の長男。文久 3（1863）年に航海術修行のため、兵庫に赴き勝海舟の下で学ぶ。明治 2（1869）年、箱館産物取締御用掛。明治 5（1872）年、会計事務局に出仕。以後、箱館裁判所民政掛監察兼外国掛、徴士箱館産物取締御用、開拓使御用掛、開拓権判官、開拓少判官、開拓中判官などを歴任。

明治 6（1873）年より樺太支庁に在勤。明治 8（1875）年、樺太・千島交換条約の実施のため理事官に就任。明治 22（1889）年、山形県知事に登用される。明治 38（1905）年、貴族院勅選議員に任じられ、死去するまで在任した。

団野確爾（だんのかくじ、1847-没年未詳）

団野千久馬の養子。文久 3（1863）年、芝御陣屋番士として取り立てられる。その後隊士として諸隊に配属され、天狗党の乱や会津戦争に従軍。明治 2（1869）年、柔術世話役頭取となるが、翌年 2 月に土着開墾と一万五千坪の譲渡を願い出て許可され、帰農。

同年閏 10 月、由利公正に随行した東京出張をきっかけに酪農家を志し、築地の牛馬会社や横浜在住の英国人から搾乳・製乳を学び、洋牛を購入して帰福。乳牛の飼育と牛乳の販売を開始する。事業は失敗に終わるが、再興を図りそれが交同社（福井藩の士族が設立した活版印刷・牛乳販売の会社）の基礎となる。

3 刊行計画

『福井藩士履歴 1～6』（既刊）、『福井藩士履歴 7 子弟輩』（今年度刊行）

『福井藩士履歴 8～ 新番格以下（仮題）』（来年度以降刊行の予定）

4 配布方法等

平成 31 年 3 月 26 日（火）以降、希望者には文書館閲覧室において配布。
県内図書館、都道府県立図書館・文書館等へ配付。

5 判および発行部数

A4 判（本文 128 頁） 印刷部数 1000 部